



MERCURE KYOTO STATION'S

# Art Collection

MERCURE

HOTEL

KYOTO STATION

デザインコンセプト  
「平安京、貴族の遊び」



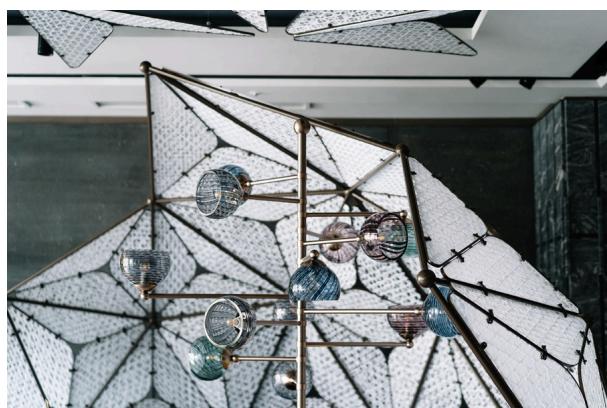
メルキュール京都ステーションでは、平安時代の貴族の暮らしをイメージした現代的な空間に「平安京、貴族の遊び」をテーマとしたアートワークを館内のいたるところに展開しています。

設計：DESIGN STUDIO CROW  
担当：藤本泰士、末木なな子、久保田 謙  
施工：野村建設工業  
照明計画：マントル  
サイン計画：びこう社  
厨房器具：ホンザキ京阪  
FF&E：アマカスアンドアソシエイツ  
アートワーク：OXY studio

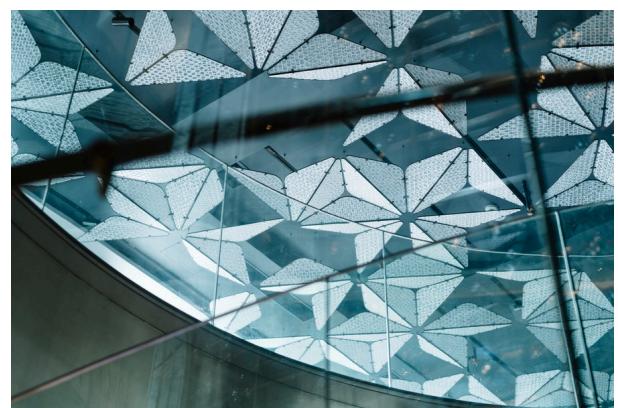


Tesuki washi  
手漉き和紙

ゲストをお迎えする1F ロビーの天井とチェックインカウンターのドームは折り紙で鞠を作る際のパーツを京都の手漉き和紙で表現しています。



フロントカウンターのドーム



ロビートリム



Glass spheres  
ガラス玉

鞠をモチーフとした650個ものガラスボールは、ロビーのブラインドウォールと、訪れたゲストを一番最初にお迎えするエントランス正面、メリキュールホテルズのブランドマークの装飾に使われています。

ブラインドウォール

カラフルな色合いで平安時代当時の着物の色を表現。大小様々なひとつずつ職人の手作業で作られており、それぞれ違った模様をお楽しみいただけます。



# 1F Elevator Hall



Cloth scrolls

巻物

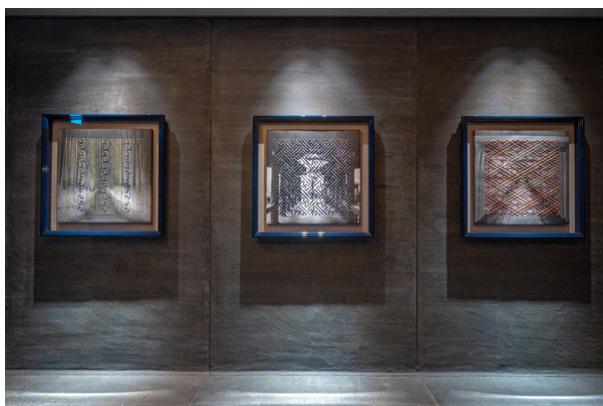
平安貴族が身にまとう雅な着物をイメージした色とりどりの巻物。



Bonsai

盆栽

平安時代の末期が起源といわれる盆栽。1階ロビーの他、館内パブリックスペースにも多く取り入れられています。



Artworks

「和柄」刺繡のアートワーク

京都の風景に「和柄」の刺繡を施したアートワーク。

このアートワークには左から①「嵐山の竹林」、②「西本願寺」、③「伏見稻荷大社の千本鳥居」の写真が使われています。



和柄



①



②



③

## 「雅楽」



Furniture inspired by "Gagaku"

## 雅楽をイメージした家具

平安時代に盛んにおこなわれた「雅楽」の演奏会をイメージし、テーブルは鼓、椅子はお琴、テーブルマットは枯山水、掘りごたつエリアの壁は墨流し、木のついたてでは屏風など、様々な形で取り入れています。



テーブル=鼓



椅子=お琴



テーブルマット=枯山水



掘りごたつエリアの壁=墨流し



木のついたて=屏風



地下1階エレベーターホール

Artwork with moss

## 苔のアートワーク

山中の苔の美しさや静けさ、清々しさを表現した、苔を使った大きなアートワーク。

## 「投扇興」

投扇興とは、霧箱の台にたてられた「蝶」と呼ばれる的に向かって扇を投げ、その扇・蝶・枕によって作られる形を、源氏物語や百人一首になぞられた点式によって採点し、特典を競う伝統的な対戦遊び。



Yukimi Shoji Screen  
雪見障子

障子の一部にガラスをはめ込み、外気を入れずに部屋から外の景色を楽しめるように作られた「雪見障子」をイメージした壁のデザイン(全客室共通)。



Fan  
ベッド上の扇のアート



Room Number Plate  
扇イメージの部屋番号のプレート



Bed Light  
かんざしをイメージした照明  
(全客室共通)



Corridor  
廊下

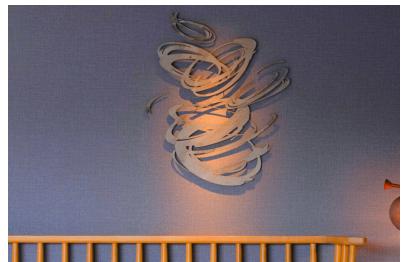
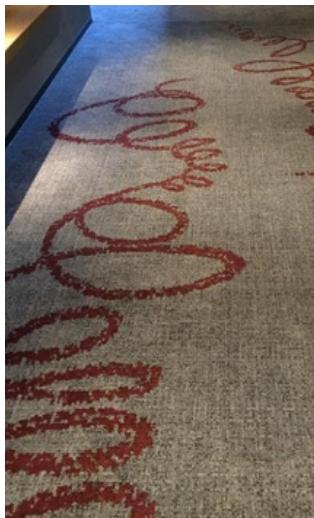
扇子をあおぐときにできる風の動きを  
イメージした廊下のデザイン。



# Guest Room

9~10F プリビレッジフロアコンセプト

## 「独楽遊び」

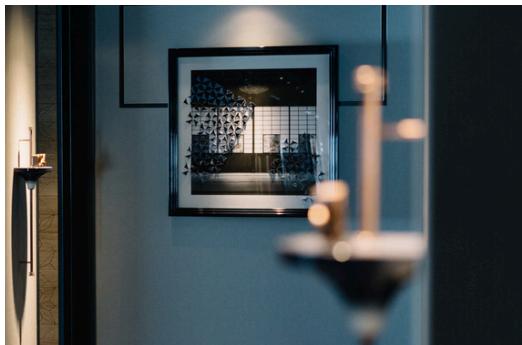


Spinning Top  
独楽の軌道をイメージしたアート  
Corridor  
廊下



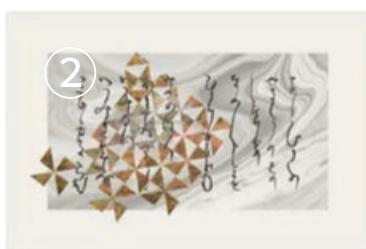
Room Number Plate  
独楽をイメージした部屋番号のプレート

独楽が回る動きを表現した廊下のデザイン。



Artwork Displayed in the Corridor  
廊下のアートワーク

廊下の突き当りには京都の窓(①)を、  
フロアの壁面には墨流しと百人一首を  
テーマにした「重ね」と「折り」のア  
ートワーク(②)を展開。どちらも背面に  
は京都の景色が潜んでいます。



# 「曲水の宴」

曲水の宴とは、水の流れる庭園などでその流れのふちに出席者が座り、流れてくる盃が自分の前を通り過ぎるまでに詩歌を読み、盃の酒を飲んで次へ流し、別堂でその詩歌を披講するという行事のことで、平安時代には宮廷や貴族の邸宅でも行われていたといわれています。

近隣では城南宮にて年2回(4月・11月)再現されています。

イタリアンレストラン TRATTORIAMKYOTOでは、貴族が優雅且つ豪華絢爛に宴を楽しむ様子を遊び心感じられる演出で表現しています。



Wall Tapestries

## 壁面タペストリー

当時の絵巻や地図、百人一首から構想を得て一から作成。



Tesuki Washi

## 手漉き和紙

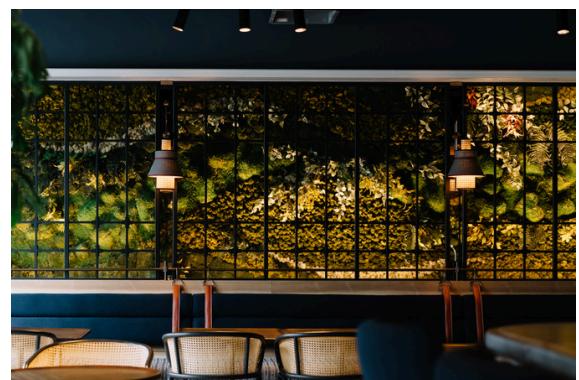
ロビーと同様、手漉き和紙を使った照明。



Display lack

## 飾り棚

平安時代に起源があるとされる盆栽や和綴じ本などと共に、イタリアンレストランならではのインテリアも。



Wall Art

## 壁面アート

山中のコケの美しさや静けさ、清々しさを表現したアート。